



習慣

先日の代表委員会の議題は「小長井小のあいさつ」についてでした。自分たちの生活改善について自分たちで取り組むことは、社会性や自治力を育む上で有効です。ぜひ、あいさつ改善の取組を粘り強く取り組んでほしいと思います。

さて、この「あいさつ」ですが、私がほぼ毎朝校門前に立ってあいさつして見られる子どものあいさつは、概ね次の 3 パターンに分類されます。

- ① 自分から元気いっぱい、あいさつする子
- ② こちらからあいさつすると、あいさつを返す子
- ③ こちらからあいさつしても、素通りする子

もちろん、その日によってパターンは変わるのですが、①の子のあいさつが②や③になることはほぼありません。ですから、①の子が②や③の時は、「何かあったかな？」と思います。

では、なぜ①の子のあいさつには波がないのでしょうか。おそらくあいさつをするということが、自分を奮い立たせないといけないのではなく、自然体でできる「無意識」のレベルまで習慣化されているからだと思います。

何事もそうですが、習慣づくまでには相応の時間がかかります。しかし、一度習慣づくとも苦になることはありません。

子どもたちがいずれ出る社会の第一歩は「あいさつ」かなとも思います。あいさつがうまくできない社会人、どうですか？



時の速さ

私は、この20年ほど評判の良しあしに関わらず朝ドラを録画して視聴しています。朝ドラは4～9月の前期と10～3月の後期の半年ごとに番組が変わります。今年度前期の朝ドラは好評のうちに幕を閉じ、昨日(9/29)から新番組が始まりました。

この朝ドラを見てみると、半年があっというまに終わります。ついこの前まで子役だったのに、メインの役者さんたちに変わり、ドラマの中での時間が過ぎます。それと同時に現実の時間も過ぎていきます。

今年度後期の番組が最終回を迎えるころは令和7年度が終わります。それは統合初年度が終わり、義務教育学校開校まで2年となる時期になるということです。

また、今の学年が次の学年に移り、6年生は中学生へと進学する時を迎えるということです。

今年度の振り返しです。年度当初に立てた自分の目標はどれくらい達成できているのでしょうか。「こ・な・が・い」の「ことば」「なかま」「がんばり」「いきいき」は順調に身についているのでしょうか。

振り返りつつ先へ進む時期になってきていると、10月を迎えると毎年感じています。

また、私は大河ドラマも見続けています。大河ドラマは1月～12月の期間で放送されます。最近は12月中頃で最終回を迎えることが多いので、今の大河ドラマもあと10回ほどです。つまり、大河ドラマをあと10回視聴したら、2025年も終わりということです。

朝ドラにしても大河ドラマにしても、毎日または毎週の視聴は15分から45分ですが、気づけば半年、1年と過ぎていきます。「光陰矢の如し」時というのはこちらが思っているよりずっと早く、決して待ってくれないものだと思うにはいられない時期でもあります。



基礎工事

令和 10 年度に小長井小・小長井中は義務教育学校としてのスタートを切り、それに合わせて新校舎が建築予定です。

では、建築物を建てる時に一番重要なのは何でしょうか？間取りでしょうか、設備でしょうか。私は建築の専門家ではありませんが、おそらく基礎工事の部分だと思います。建物をしっかりと支える基礎、土台です。または地盤改良もあるかもしれません。どちらにしろ建物を建てる前の段階です。

また、先日相撲の中継を見ていたら、元関取の解説者が「相撲の基本は四股です。四股をどれだけ踏んだかで、相撲取りとして重要な足腰が出来上がるんです」というようなことを話されていました。

建築にしても相撲にしても基礎基本がいかに大切かを物語っていると思います。今子どもたちは自分の将来のための基礎基本を学んでいるところです。それは学習であったり、社会性であったり、自分に打ち勝つ力であったりと、人生において必要な基礎基本です。

「三つ子の魂、百まで」のことわざもあります。子どもたちの「今」は、子どもたちの「未来」と無関係ではないと思っています。

現在・過去・未来

♪現在・過去・未来♪、というのは、昔のヒット曲のワンフレーズですが、「現在の自分は、過去の自分の選択と積み重ね」「未来の自分は、今の自分の選択と積み重ね」であることは、言えると思います。

過去の自分がもしあの時、あの選択をしてなかったら今の自分は違う人生を歩んでいたはずです。そして、今自分がしていることは、未来の自分に多かれ少なかれ影響を与えます。

「未来の自分は、今の自分の先に待っている」ことを子どもたちにも意識させたいところです。



学校の役割

満 6 歳を迎えた翌年の 4 月から小学校に入学し、15 歳を迎えた 3 月に中学校を卒業するまで、子どもたちは義務教育のもと『学校』に通います。(正確には保護者が学校に通わせる義務のもとになります)

では、この 9 年間で子どもたちは何を学ぶのでしょうか？漢字や計算などの基礎知識でしょうか？家庭科の調理実習でしょうか？体育の逆上がりでしょうか？

子どもたちの日々の活動は時間割や行事に表れています。しかし、学校の役割となると「できた」「楽しかった」ということとは少し違うように思います。そこで学校の役割を子どもたちの将来を見据えてとらえると…

『自己決定できる力を培う』

人生の岐路がいつか訪れます。その時、自分はどうしたいのかを自分で決めなければ後悔します。他人のせいにするのは非難の的です。自分の意見を考えたり、出したり、明確な自分の立場を表現したりすることを通して培います。

『他の人の気持ちを理解する力を培う』『コミュニケーション力を培う』

社会生活を営む上で、他者との関りを皆無にすることは現実的ではありません。リモートが普及しても画面の向こうには相手がいます。学校生活を通して様々な人と交わることで社会性を育てます。時には不快な思いをすることもかもしれません。しかし、一生快適な人生も現実的ではありません。どうやって乗り越えるかも大切な学びです。

『自己実現できる力を培う』

なりたい自分になれることは、人生においてとても重要なことです。子どもたちの可能性は無限大です。しかし、何の力も蓄えずなりたい自分になれるのでしょうか。進みたい道に必要な知識や技能ばかりでなく、基礎的な学力が備わっていない場合、進みたくても進めないことが少なくありません。「なりたい」「したい」だけで道は拓けません。義務教育期間の 9 年間は、なりたい自分になるための基礎的な力を蓄える時期でもあります。



いつかは…

突然ですが、「人の数だけ人生があり、同じ人生は二つとない」と思います。

しかし、どんな人生にも共通していることがあるとすれば、「**順風満帆の時もあれば、逆風が吹いて思い通りにならない時もある**」ということではないかなと思います。

現在小学生の子どもたちも、いつかは社会に出て、自分の人生を歩いていく日がきます。その時は**自分の力で自分の人生を拓き、築くことが求められます**。誰かが自分の人生をつくってくれる、肩代わりしてくれることはないのではないかと思います。そして、**人生の逆風が吹いた時、それを取り切るだけの力を十分持っている人と、持っていない人とでは人生が大きく変わ**ると思います。

では、その力はどうやって自分のものになるのでしょうか。それは「しなければいけないことをやり遂げる」「嫌な思いをした時の解決・解消を前向きに考える」「言い訳をしない」など、**自分のネガティブな感情に対してポジティブに働きかけるトレーニングの有無**だと思います。

小学生には小学生なりのネガティブな感情があると思います。それを自分の力で解消していくように発達段階や状況に応じて周囲のサポートも得ながら、トレーニングしていく必要があるのではないかと思います。

誰かが自分の目の前にある障害物を取り除いてくれるのを待っているのでは、いつ先へ進めるのかわかりません。障害物を乗り越えるのか、迂回していくのか、穴を空けるのかなど、**先へ進む方法を自分で考え、実践していく力**は一朝一夕には身につかないと思います。**小さな積み重ねが将来の大きな力**となるのではないかと思います。



「こながい」の「こ」

小長井小には「こ・な・が・い」を頭文字にして子どもたちに意識づけをしていることがあります。「こ」は「ことば」、「な」は「なかま」、「が」は「がんばり」、「い」は「いきいき」です。これらは子どもたちが自分の成長の物差しとして、校長の話をするたびに取り入れています。

さて今回は、「こ」（ことば）について紙面を割きます。子どもたちの日常的に使っている言葉の中に「うざい」「だまれ」「くんな」「あっち行け」など、心ない言葉を耳にされることはないでしょうか。親しい間柄でもグサリと突き刺さる言葉を口に出している、文字として書いている場面がないでしょうか。

おそらく、本人はさほど気にせず口にしたり書いたりしている場合が多く、時としてそれすら忘れていることもあります。しかし、言われた方、書かれた方はどうでしょうか。

「子どものしていることだから」ではなく、子どもだからこそ「ことば」の大切さを学ばせないといけないと思います。

また、私たちは言葉を誕生以来習得して成長していきます。それは日本であれば日本語という言語をある程度は自然と身につけ、日本独特の方言を習得しています。

であれば、「言葉づかい」についても同様のことが言えるのではないのでしょうか。激しい言葉づかいの環境、やわらかい言葉づかいの環境、メディア漬けの環境等々、子どもたちが育った環境は子どもの「言葉づかい」に多少なりとも影響を与えていないのでしょうか。

しかし、どのような言葉の環境であっても、子どもたちが社会に出て人と交わるようになれば、自分の言葉づかいだけでは通用しなくなります。例えば激しい言葉づかいは自分が意図せず相手を傷つけてしまう、乱暴な人という印象を相手に与えてしまいかねます。

学校は子どもたちが初めて出会う社会です。ですから社会での言葉づかいが必要になります。家と同じ感覚の言葉づかいは通用しない場面が増えてきます。

「嫌なことを言われた」というのは、子どもどうしのトラブルで上位に入ります。相手を思う、慮る言葉づかいについての指導は、学校・家庭の両面からと思います。



夏休み作品展

子どもたちの夏休みの成果の一つが、夏休み期間中に取り組んだ作品だと思います。調査・研究、工作、絵画・ポスター、書写等々、作品への取り組み方は様々です。

子どもたちの作品を見ていると、夏休みの多くの時間を割いて取り組んだのだろうなと思われるもの、目のつけどころがいいなと思うもの、ちょっと切羽詰まって始めたかなと思ってしまうものなど様々で、作品の一つ一つに取り組んだ子の夏休みが垣間見えます。

子どもたちの中には「夏休みの作品制作がなかったらいいのになあ」と思っている子もいるかもしれません。しかし、自分で計画し、創造力や想像力を働かせ、創意工夫をして形あるものを生み出す経験は、社会を担う一人となった時、未知の世界を切り拓く力の源になるのではないかと思います。

夏を振り返って

今年の夏休みを私なりに振り返ってみると…

- ・ 今年も全国的に水の事故の報道が多くありました。ただ中には高い所から川や海に飛び込んだがために事故になっているようなケースもありました。
⇒事故の中には防げたものもあり、事故を対岸の火事としない心がけが必要だと思います。
- ・ 連日の猛暑で、気温が 40℃を超える地点もありました。
⇒4 月頃から 10 月頃まで熱中症への対策・対応を考える必要がある気候となっていると感じます。気候の変化に応じた学校生活も必要かと思っています。
- ・ 野生のクマによる被害が相次いでいます。
⇒多良山系にはクマの生息はないと聞いていますが、野生のイノシシやサルを目撃情報は身近にあります。人里に野生の生き物が出没する自然環境になっているような感じがします。
- ・ 変化する高校野球
⇒暑さ対策から試合時刻を朝夕に分ける 2 部制や試合途中で休憩を挟むクーリングタイムの導入など 100 年を超える歴史の中にあっても時代に即した取組が取り入れられました。それでも球児のプレーが色あせることはなかったと感じます。

あおなみ-Blue Wave-

学校ホームページはこちらから→



経験値をあげる 2 学期

子どもたちにとっては、あっという間だったかもしれない夏休みが終わり、2 学期が始まりました。始業式にあたって校長から 3 点話をしましたので、ご家庭でも共有していただければと思います。

① 2 学期は経験を積むチャンスがたくさんあり、毎日の学習や学校生活での取組だけでなく、小体連、音楽会、宿泊学習、修学旅行、社会科見学などたくさんの行事もあります。中には初めて取り組むこともあるでしょう。時々「やったことがないので、わかりません、できません」という声を聞くことがあります。「したことなか〜」「わからん、できん」と言っているだけでは、いつまでたってもしたことのない自分、わからん自分、できん自分のままです。自分の力をつけるため、伸ばすため、みがくためにも 2 学期の様々なチャンスを生かしていきましょう。

そして自分の力がついてくると、ついた力をもとに、やったことがないことでも、「あれと、あれを使えば…」とか「これをちょっと工夫すれば…」と解決の手がかりが生まれてきます。そのはじめの一步は、やってみようと挑戦することです。

② 2 学期も「こ・な・が・い」を考えて、生活してほしいと思っています。自分の言っていることやしていることは「ことば」「なかま」を大切にしているのか、粘り強い「がんばり」で自分の力を伸ばしているか、心も体も「いきいき」と学習や生活ができているか、「こ・な・が・い」は自分がどれだけ成長できているか測る物差しです。

③ 私がこの夏休みで印象に残ったこととして、高校野球長崎県予選大会の準決勝・決勝と甲子園大会決勝を取り上げ、粘り強く最後まであきらめないこと、試合に敗れても礼儀を失わない清々しさは小学生にも学ぶことがあります。

日数としては最も長い 2 学期ですが、体感として最も短く感じるのも 2 学期です。子どもたちにとって実りの多い 2 学期となるよう職員一同日々の教育活動に努めます。

保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

あおなみ-Blue Wave-

学校ホームページはこちらから→



県民祈りの日～平和集会～

8 月 9 日に長崎県の子どもたちは、学校に行く日があるという、他県の子どもたちは「夏休みなのになぜ？」となる子が多いそうです。

私たち長崎県民にとって 8 月 9 日は平和を祈る大切な日です。世界の多くの国や地域の中で、被爆したのは広島と長崎だけです。そして、長崎は最後の被爆地としなければなりません。それだけ、8 月 9 日は意義深い日なのです。

小長井小学校でも 4 年生が社会科見学で訪れた平和公園や原爆資料館での学びをもとに全校に呼びかける発表を行いました。現地を訪れたからこそ実感できたことを言葉にして、よく伝えていました。

また、校長の話では、小学生ができる「平和を大切にする」を次の 4 つとして伝えました。

- ・人に対して意地悪やいじめことをしないこと
- ・「ごめんなさい」「ありがとう」をきちんと言えること
- ・自分のしていることがみんなの迷惑になっていないか考えること
- ・当番や係、委員会などの自分のできること、自分の役割に責任をもち、みんなの役に立つこと

これらのことは、自分の周りの人たちと心地よく関わることに繋がります。

まずは、自分と自分の周りの人が心地よく過ごせることから始め、自分たちの身近な平和を考えてほしいことを話しました。

世界の平和というような大きな平和は、身近な平和の積み重ねやつながりの先にあるのではないかなと思います。この身近な平和を自分が乱していないかよく振り返ることの大切さを伝えました。

8 月は報道や番組でも平和をテーマにしたものが多く取り上げられます。ご家庭でも平和についてお子様と話をされる時間をつくられてみてはいかがでしょうか。



1 学期終業式

統合から早 3 か月半、1 学期の終業式を迎えました。大きな事故もなく区切りの日を迎えることができホッとしているところです。

さて、終業式での校長の話の概要を掲載し、1 学期の学校だよりを終えようと思います。

◇「こ・な・が・い」、「ことば」「なかま」「がんばり」「いきいき」の振り返り

挨拶や言葉づかい、人への優しさはどうだったか、最後まで粘り強く取り組めたか、宿題を面倒くさいとしなかったことはなかったか。

毎日の授業への取り組みはどうだったか、クラスみんなで協力して授業のめあてを解決しようとできたか。

◇あゆみの活用

子どもたちの頑張りや、よかったこと、もう少し頑張ってほしいことについては、担任から渡されるあゆみを見て、1 学期にできたこと、夏休みに頑張っておいたほうがいいことをたしかめてほしい。ただ 1 学期の結果は 1 学期のもの。1 学期できていたからと言って何もしないと、できなくなってしまうかもしれない。逆にできなかったことで、それを一生懸命取り組めばできるようになるかもしれない。あゆみの活用を。

◇校長の願い

「2 学期の始業式を全員そろって、もし転校してしまう人がいたら、その人は転校した学校で、元気に 2 学期をむかえてほしい」。

毎年夏休みの間に日本のどこかで子どもたちが水の事故、交通事故、災害、事件などで命を落としましたというニュースが流れる。もし、夏休み中に病気やけがをしてしまっても治って元気になってくれればいいが、命を落としたら、もう元には戻らないこと。誰も小長井小学校の子どもたちは、事故にも事件にも遭わないと言ってあげることはできないこと。ここにいる全員が事故や事件にあう可能性をもっていること。だから夏休みの生活についてしっかり先生方やおうちの人とたしかめてほしい。

8 月 9 日の登校日や 2 学期の始業式に元気に会いましょう！